



大森勝山遺跡

国指定  
史跡

# 大森勝山遺跡



unesco  
World Heritage Site  
Jomon Prehistoric Sites  
in Northern Japan



構成  
遺産

世界文化遺産  
北海道・北東北の縄文遺跡群

## 岩木山をのぞむ縄文人の祈りの場

三千年前（縄文時代晩期）の環状列石

# 大森勝山遺跡とは？

おおもりかつやまいせき

大森勝山遺跡(弘前市大字大森字勝山)は、岩木山の北東麓、標高140～150mの舌状丘陵上に立地します。

岩木山麓の大規模農業開発に先立ち、発掘調査が1959～1961(昭和34～36)年と2006～2009(平成18～20)年に行われました。

全国でも希少な約3,000年前(縄文時代晩期)の環状列石や大型の竪穴建物跡が発見されました。特に、縄文時代晩期の環状列石としては国内で唯一、発掘調査により環状列石の全体の大きさなどが明らかとなり、縄文時代の祭祀・儀礼の変遷がわかる、とても重要な遺跡です。

これらの調査成果により、遺跡は2012(平成24)年9月に国の史跡に指定されました。



環状列石と岩木山 (2008)



昭和期の調査 (1960)



平成期の調査 (2008)

## メモ

### ●環状列石とは？

様々な大きさの石を並べて、大きな環を作ったもの。ストーン・サークルとも呼ばれ、祭祀などに使われたものと考えられている。

大規模な環状列石は、縄文時代前期または中期(約5,550～4,500年前)に中部地方で始まったとされており、縄文時代後期(約4,000年前)には、北東北などで多く作られるようになる。

### ●昭和期の調査

県内で初となる行政主導の発掘調査。当時では珍しいヘリコプターによる航空写真撮影が行われた。

### ●平成期の調査

この調査により、環状列石などが縄文時代晩期のものであると確定。

# 大森勝山遺跡の全体像

環状列石は、遺跡中央に作られており、神聖な場所として、<sup>さいし</sup>祭祀・<sup>ぎらい</sup>儀礼(「おまつり」)の場として使われたと考えられます。

竪穴建物跡は1棟のみで、かつ、大きな建物であることから、コミュニティセンター(集会所)のような場所であったと考えられます。

環状列石の周辺には、火を焚いた場所(炉)や、土器や石器がまとまって捨てられた場所(捨て場)も見つかっています。

人々は、遺跡のまわりの集落(ムラ)からこの地へ集まり、岩木山を眺めながら環状列石で祭祀・儀礼を行っていたのかもしれませんが。

## メモ

木々を抜けると、環状列石の作られた台地と岩木山が見える。

現代の人工物が全く見えない風景は、まるで縄文時代にタイムスリップしたかのよう。

この風景は、国内外から高い評価を得ている。



環状列石→P3へ



遺跡入口



園路

史跡指定範囲

土器埋設遺構・集石遺構→P4へ



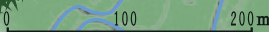
捨て場→P5へ



大型竪穴建物跡→P4へ

大森川

大石川



屋外炉

# 環状列石

環状列石を作る前に、一度地面を削り、平らにするという大きな土木工事が行われています。さらに土手状に盛り土し、その縁辺部に石を並べています。

環状列石は77基の組石(石のグループ)により円環が作られています。

なお、環状列石からは土器や石器はほとんど見つかりませんでした。円盤状石製品ばんじょうせきせいひん(詳細P6へ)が250個出土しています。

約4,000年前(縄文時代後期)の大湯環状列石(秋田県鹿角市)などでは、組石の下や環状列石の内側、周辺において、集団のお墓などの遺構いこう(生活の痕跡)が見つっていますが、約3,000年前(縄文時代晩期)の大森勝山遺跡の環状列石では見つかりません。

環状列石を作るという考えは受け継がれたものの、用途が少し違っていたようです。



いろいろな組石 (写真左から環状、直線状、平らな石の集合、小さい石の集合)



環状列石 (写真下が北、写真右が岩木山方向)

## メモ

### ●環状列石の大きさ

長径48.5m(北東-南西方向)  
短径39.1m(北西-南東方向)

### ●使われた石の材質(採取地)

輝石安山岩(大森川・大石川)  
花崗岩(鯉ヶ沢町 赤石川)  
流紋岩(弘前市相馬 榎内川)

### ●環状列石の石

総数1,200個  
(内訳)

安山岩	1,100個
花崗岩・流紋岩	100個

### ●石の大きさ

直径0.1~1.0m

# 大型竪穴建物跡

大型竪穴建物跡は、環状列石の南西約100m、環状列石と岩木山を結んだ直線上にあります。なお、竪穴建物跡は遺跡で1棟のみ見つかっています。

建物跡は、直径約13mで、中央には円形の石組炉が見つかっています。この炉を囲うように、棟などを支える支柱穴として、直径0.2~0.4mの柱の痕跡が4か所見つかっています。

遺跡の近隣には、同じ時代の遺跡(集落)が見つかっていません。少し離れた場所に遺跡が多く見つかっており、そこから人々がこの地へ集まっていたものと考えられます。



## メモ

### ●竪穴建物跡発見時

その大きさから、3,000年の時間がたっても埋まりきらず、調査当時は大きなくぼ地となっていました。

大型竪穴建物跡 (1959)

# 土器埋設遺構と集石遺構

環状列石の周辺で、大きな土器を埋めたもの(土器埋設遺構)や、土坑の上<sup>どこう</sup>に石を並べたもの(集石遺構)が見つかっています。

土器埋設遺構は、高さ37cmの深鉢形土器を、口を上にして埋めています。土器に溜まった土を分析したところ、動物の骨の成分が確認されました。

集石遺構の中からは、完形の小さな土器が出土しています。



土器埋設遺構 (2008)



集石遺構 (1959)

# 捨て場

台地の北端や東端では、土器や、石器、石製品、土製品などのさまざまな出土品がたくさん見つかっています。

ここは、祭祀・儀礼などで使ったものを捨てた場所だったようです。



東端捨て場（2008）



小型壺



注口土器（注ぎ口を持つ土器）



土偶（背面）



土偶（上半部）

## メモ

### ●出土した土偶

縄文時代晩期中頃（大洞 C2 式期）の土偶上半部。背面には沈線で渦巻き状の文様が描かれている。

# 出土品

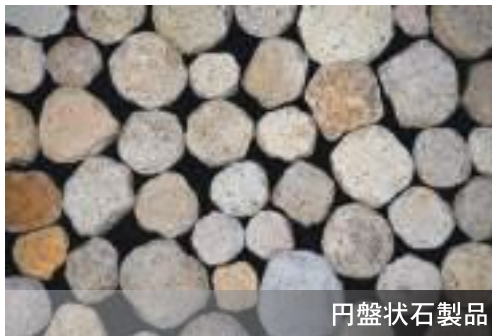
遺跡では縄文時代晩期の土器や、石器、石製品、土製品が出土しています。特にこの遺跡を特徴づける出土品として、円盤状石製品があり、祭祀・儀礼に使われたものと考えられています。

土器や土製品には、精緻で複雑な文様がつけられたものもあります。この文様は、縄文時代晩期に隆盛した文様で、同じ時代の著名な史跡亀ヶ岡石器時代遺跡(青森県つがる市)の名前から、「亀ヶ岡式土器」と呼ばれています。

なお、旧石器時代の石器もこの遺跡から出土しています。



亀ヶ岡式土器



円盤状石製品



旧石器時代の石器

## メモ

### ●円盤状石製品

環状列石と同じく、大森川や大石川で採取した安山岩を、直径5～10 cmくらいの円盤に加工した製品。

祭祀・儀礼に用いられたものと考えられる。

### ●出土した旧石器時代の石器

風成火山灰層(いわゆる地山、約1万5千年前に降下したとされる十和田一八戸火山灰層)の中から出土した珪質頁岩製の剥片石器。

ナイフ形5点、彫刻刀形3点、搔器1点、削器1点の10点が出土。

約1万5千年前は、旧石器時代の終わりから縄文時代草創期に相当する。この石器もその時代のもと考えられている。

なお、県内で初めて出土した旧石器時代の遺物であり、県重宝に指定されている。

また、市内で唯一の旧石器時代遺物の出土事例である。

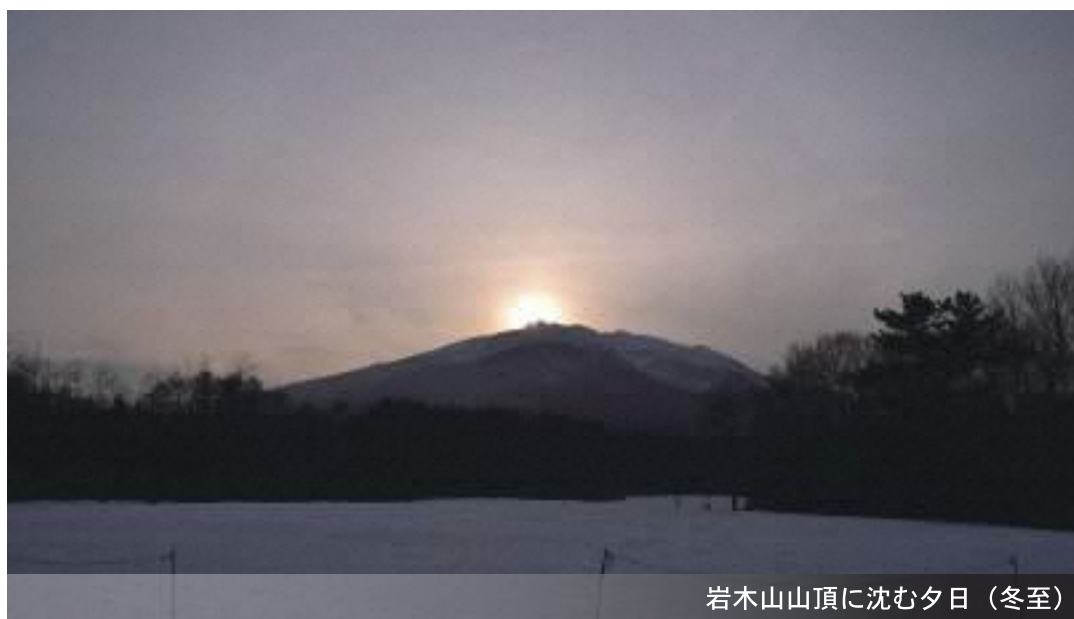
# 縄文時代を彷彿とさせる風景

遺跡では、現代の建物がほとんど見えない空間の中で、秀峰・岩木山の美しい姿を望むことができます。縄文時代を思い起こさせるようなこれらの風景は、国内外で高い評価を得ています。人々は、この雄大な風景を求めて、この地に環状列石を作ったようです。

また、冬至(12月下旬)に岩木山の山頂に沈む夕日を望むことができます。縄文人は、高い天体観測の技術をもっていたようです。



環状列石と岩木山 (2020)



岩木山山頂に沈む夕日 (冬至)

# 北海道・北東北の縄文遺跡群

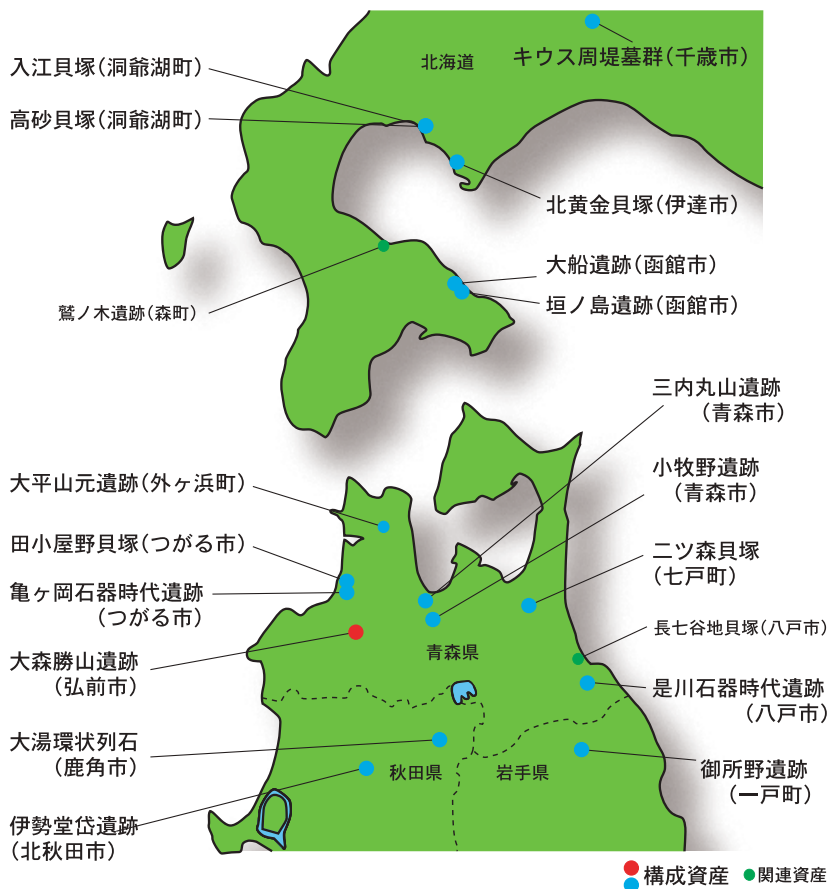
北海道・北東北の縄文遺跡群は、1 万年以上にわたり採集・漁労<sup>ぎょうろう</sup>・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える文化遺産です。北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する17の遺跡で構成されています。

北海道・北東北では、ブナを中心とする落葉広葉樹の森林が広がり、海洋では暖流と寒流が交わり豊かな漁場が生まれました。このような自然環境のもと、人々は食料を安定的に得ることができ、今から約1万5千年前に土器を使用し、定住を開始しました。

その後、1万年以上の長きにわたって農耕に移行することなく、気候の温暖化や寒冷化などの環境変化にも巧みに適応しながら、採集・漁労・狩猟による定住を継続しました。この間、土偶や環状列石、周堤墓<sup>しゅうていぼ</sup>などにみられるように、精緻で複雑な精神文化を育みました。

北海道・北東北の縄文遺跡群は、農耕文化以前の人類の生活や精神文化を伝える貴重な遺産です。

2021(令和3)年7月27日、世界遺産委員会において、世界遺産リストへの記載(世界文化遺産登録)が決定されました。



## メモ

### ●構成資産

保存状況が良く、また、文化財保護法などの法律により保存が図られ、縄文遺跡群としての価値を具体的に証明できる資産。

青森県8資産、北海道6資産、秋田県2資産、岩手県1資産所在する。

大森勝山遺跡は、2012(平成24)年12月に構成資産に加わった。

### ●関連資産

縄文遺跡として顕著な価値を有しており、縄文遺跡群と関連が深く、一体的に保存活用を図っていく資産。

# 世界遺産としての大森勝山遺跡

約4,200年前(縄文時代中期の終わり頃)になると、寒冷化が進み、大規模集落の維持が困難となるようです。やがて集落が分散するようになり、丘陵や山地にも作られるようになります。その中で、当時の人々は、みんなが集まる共同の祭祀場・墓地を作り、祭祀・儀礼を通じてムラ同士の紐帯・絆を確かめたりしたようです。

このような背景の中で、環状列石は作られたと考えられています。この頃の環状列石が、北東北や北海道で数多く見つかっており、石の下や、環状列石の円の内側・周囲からは、集団墓(共同墓地)も見つかっています。集落の外にみんなが集まる場として、祭祀・儀礼・墓地の場を構築・維持管理していたようです。

約3,000年前(縄文時代晩期)になると、祭祀・儀礼が充実し、共同の祭祀場や共同の墓地が顕著となります。その中で、共同の祭祀場と墓地は別々に作られたと考えられています。

大森勝山遺跡では、環状列石の石の下や、環状列石の円の内側、周囲から集団墓が見つかっていません。どうやら遺跡の外に集団墓を作っていたようです。

このことから、大森勝山遺跡は、祭祀・儀礼に特化した場として使われていたと考えられています。そのため、大森勝山遺跡は縄文時代の祭祀・儀礼の変遷を考える上で、重要な遺跡であると言えます。



環状列石と岩木山 (2020)

# 遺跡を将来へ残すために

弘前市では、遺跡を守り将来へ残すため、2015(平成27)年に保存活用計画、2016年(平成28)年に整備計画を策定し、これらの計画に基づき、2017(平成29)年から整備事業を開始しています。

弘前市は、1961(昭和36)年、遺跡を発掘調査後に埋め戻し、公有化を行い、保存して守ってきました。その経緯を踏まえて、この整備では、遺跡の台地全体に保護盛り土を施し、地下遺構の保存を行いました。

現在、環状列石では自然石材による実物大表示を行っています。使われた石の産地(採取地)を同定し、同じ石質のもので、かつ、大きさ・形・色が極めて近い石材を確保し、発掘調査成果に基づき、同じ位置に配置しています。

大森勝山遺跡の環状列石では、内側に入ったり、石に触れたりすることができます。皆さんでどのような「おまつり」が行われていたか考えて、体感してみてください。

また、弘前市では遺跡の価値を伝えるための公開活用事業を行っています。地元小・中学生を対象とした縄文講座や、遺跡をめぐるバスツアーも行っています。

2013(平成25)年には、地元町会と学校、民間、行政が一体になった「史跡大森勝山遺跡保存活用推進会議」が設立されました。この会議の主催により、2014(平成26)年以降毎年夏には、遺跡を舞台として「大森勝山じょうもん祭り」が開催されています。



整備の完成予想図

## アクセスマップ



## 遺跡へのアクセス

- JR弘前駅から県道31号弘前鰯ヶ沢線を鰯ヶ沢方面へ北上。車で約40分。
- JR弘前駅から県道3号弘前岳鰯ヶ沢線を岩木山方面へ西に進み、県道30号岩木山環状線を鰯ヶ沢方面へ北上。車で約40分。

上記のルートを進むと、県道31号弘前鰯ヶ沢線と県道30号岩木山環状線をつなぐ市道があり、遺跡看板が見えますので左折（または右折）してください。

最寄りのバス停は、県道31号線にある案内看板近くにありますが（「赤倉神社登山口前」、遺跡までは約3kmの坂道となっております）、片道徒歩約50分かかります。

## 遺跡を見学されるみなさんへ

- 遺跡の見学は自由です。また、見学料は無料です。事前予約も不要です。
- 冬季（11月下旬から3月）は積雪などのため閉鎖しています。
- 市道から遺跡の道路は工事用の仮設道路となっており、防風林からの枯枝落下などもありますので、通行に当たっては十分ご注意ください。
- 見学の際は、転倒や急な斜面・河川での滑落、野生動物などに十分にお気をつけください。
- 他の来訪者の方や、周辺の農家の方々の迷惑となるような行為はおやめください。
- 遺跡では現在、整備工事を実施中です。工事中は、ご不便をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 出土品の展示

大森勝山遺跡からは、きれいな文様を持つ縄文土器や、石器がたくさん見つかっています。出土品は、裾野地区体育文化交流センターで展示されていますので、ぜひ訪れてみてください。

### ● 裾野地区体育文化交流センター（見学無料）

- [住所] 〒036-1202  
青森県弘前市大字十面沢字轡8番地9
- [開館時間] 午前9時～午後9時
- [休館日] 月曜（祝休日の場合は翌日）  
年末年始（12/29～1/3）
- [TEL] 0172-99-7072

※展示や遺跡、世界遺産、文化財の解説・案内は行っていません。  
お問い合わせは文化財課まで。



展示風景

編集機関：弘前市教育委員会文化財課  
〒036-1393  
青森県弘前市大字賀田一丁目1番地1  
Tel: 0172-82-1642  
Fax: 0172-82-2313（教委代表）